

事務事業	5008	広域山林保全事業	担当課	経営企画課	担当係	財政係
計画 後 期 体 計 系 画	施策	19	将来にわたって持続可能なまちをつくる	予 算 科 目	会 計 1 2 1 5	一般会計 総務費 総務管理費 財産管理費
	取り組み方針	530	健全な財政運営を行う			
	法令根拠条例等			個別計画		
	実施期間	<input type="checkbox"/> 29年度のみ	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	S33 年度より開始	<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)	年度～

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
篠栗町外1市5町で共有している森林、その他の財産の管理及び処分に関する事務や山林の整備を行うことにより、災害を防ぐ。		
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		
負担金の支払		
		糟屋郡篠栗町外一市五町財産組合負担金 2,900 千円
		千円
		千円
		千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	29年度に行った主な活動(※箇条書きで記入)
	負担金の支払
② 対象(誰、何を対象にしているのか)	広域山林
③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか)	財産組合の運営費を補填することにより、組合で共有する山林が適正に管理される。



④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		指標数値			
名称	単位	28年度	29年度	30年度	
ア 負担金の支払い事務	回	1	1	1 (見込)	
イ				(見込)	
ウ				(見込)	
⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)					
名称	単位	28年度	29年度	30年度	
ア 管理面積	m ²	4,489,929	4,489,929	4,489,929 (見込)	
イ				(見込)	
ウ				(見込)	
⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)					
名称	単位	28年度	29年度	30年度	
ア 適正に管理された山林面積	m ²	目標	4,510,962	4,489,929	4,489,929
		実績	4,489,929	4,489,929	
イ 適正に管理された割合	%	目標	100.0	100.0	100.0
		実績	100.0	100.0	
ウ		目標			
		実績			
エ		目標			
		実績			
オ		目標			
		実績			

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)		28年度 (決算値)	29年度 (当初予算)	29年度 (決算値)	30年度 (当初予算)	31年度 (計画)	32年度 (計画)
	経費	国・県支出金、地方債等						
		受益者負担等						
		一般財源	2,700	2,900	2,900	2,900		
		合計(A)	2,700	2,900	2,900	2,900	0	0
		(内臨時・嘱託職員人件費)						
	正職員人件費[按分](B)		79	78	79			
トータルコスト(A)+(B)		2,700	2,979	2,978	2,979	0	0	

事務事業評価表(事業実施年度:平成29年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
組合の起源は元文2(1736)年。平成17年度から木材価格の低迷、間伐木材の減少等による収益の減少及び基金からの繰り入れの中止による収入不足を補うために、構成市町から持分に応じた負担金を徴収することになった。	構成団体に共有する森林には、育成した樹木を伐採し木材を生産し収益を得るという「経済的機能」と、環境保全や災害防止を図り、地域住民の福祉増進に寄与するという「公益的機能」の2つの機能があると考えられるが、木材価格の低迷により財産組合経営において赤字が発生してきたことから、構成市町に負担金が発生している現状を考えると、近年は「公益的機能」の重要性が高まっている。	特になし

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		29年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成29年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持・継続	負担金の支払い。 森林環境の保全、防災面での貢献。	<input type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

2 評価(SEE)及び全体総括の部*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか?※総合計画を参照してください <input type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	育成した樹木を伐採し木材を生産し収益を得るという「経済的機能」が木材価格の下落などの影響によりその機能を十分に果たしていないといった現状を踏まえると、上位施策への貢献度は直接的には影響をあたえていない。
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	森林環境保全及び災害防止といった「公益的」側面をかんがみると、町が関与すること(税金を投与すること)は妥当である。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	町は組合議会にて議決された負担金を支払うことが事業内容であり、向上の余地はない。
④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	森林の維持保全に支障をきたす可能性がある。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	コストの内容はすべて財産組合への負担金であり、負担金は組合議会にて議決されるため削減する方法はない。

(2) 29年度を振り返って(全体総括・反省点)

滞りなく負担金を支出した。

3 今後の方向性(30年度以降の計画と31年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) <input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持・継続	(2) 平成30年度以降に取り組む内容と期待される効果 負担金の支払い。 森林環境の保全、防災面での貢献。
---	--